



内閣サイバーセキュリティセンター
National center of Incident readiness and
Strategy for Cybersecurity

分野横断的演習の実施結果について

内閣サイバーセキュリティセンター
重要インフラグループ

2022年 3月22日

分野横断的演習の実施結果について（1 / 2）

1. 目的

- 分野横断的演習は「重要インフラの情報セキュリティ対策に係る第4次行動計画」の主要5施策のうち「障害対応体制の強化」の中に位置づけられるものであり、実際の事案発生を模擬することにより、重要インフラ事業者等が第4次行動計画に従って実施することとされているサイバーセキュリティ対策及びサイバーセキュリティ対処態勢が有効に機能しているかどうかを確認し、改善につなげていくことを目的として実施するものである。

（注） 「重要インフラの情報セキュリティ対策に係る第4次行動計画」は、サイバーセキュリティ基本法及びサイバーセキュリティ戦略（閣議決定）に基づき、重要インフラ防護に係る基本的な枠組みとして、政府と重要インフラ事業者等との共通の行動計画を定めたものである。

第4次行動計画においては、機能保証の考え方を踏まえ、重要インフラ事業者等は自らの責任においてサイバーセキュリティ対策を実施するとともに、継続的な改善に取り組むこととされ、政府は、必要な支援を行うこととされている。

2. 演習の形態・日時

- 机上演習 自職場参加（テレワーク環境からの参加を含む）
- 2021年12月8日（水） 13:00～17:00

3. 参加者(昨年度4,721名参加)

- 参加者全体：4,769名（606組織）
- 重要インフラ事業者〔情報通信、金融、電力等の14分野〕：4,637名（570組織）
- 重要インフラ所管省庁、情報セキュリティ関係機関 等

4. 演習の概要

- 重要インフラサービス障害発生時における一連の対応について、参加事業者自身が成すべき対応についてしっかりと事前に整理したうえで、限られた時間及び変化する状況下で何が準備・整理できていなかったのかを発見する
- 政府は、第4次行動計画における主要施策の検証を行う
- 演習参加事業者等は以下の取り組みを通じて継続的な改善を行う
 - ＜事前準備＞ 自組織における課題・リスクの状況を把握し、必要な改善を行った上で演習に参加
 - ＜演習当日＞ 演習の中で自組織の規定・マニュアル・BCP等が機能するかどうかを確認し新たな課題を抽出
 - ＜演習事後＞ 演習から得られた課題の改善に取り組む
- 演習から得られた重要インフラ防護に関する知見の普及・展開によって、更なるサイバーセキュリティ対処態勢の強化に資する

分野横断的演習の実施結果について（2 / 2）

5. 牧島大臣挨拶

演習開催にあたり、牧島かれん大臣の挨拶があった。
牧島大臣は、デジタル化の進展とサイバーセキュリティ確保の同時推進、「DX with Cybersecurity」を進めていくことについて触れた上で、本演習への参加を通じて、参加者がサイバーセキュリティへの取組に関する課題を抽出・改善し、重要インフラサービスの安全かつ継続的な提供につなげることを期待する旨発言した。



牧島大臣挨拶（ビデオメッセージ）

6. 演習の実施状況

- ランサムウェア攻撃における対応について確認するなど、障害対応体制の強化を図った
- 参加者における課題の洗い出し状況は以下のとおり
 - ✓ 演習に参加した92%が、新たな課題を洗い出した
 - 主な課題は以下のとおり
 - 「サービス利用者向けの情報発信」が124組織
 - … 情報発信の手段、タイミングや社内における情報共有・連携に関する課題
 - 「事業継続計画（IT-BCP等含む）やコンティンジェンシープランによる緊急連絡ルールに基づく対応」が101組織
 - … 緊急連絡先の整備、連絡の手段、タイミングに関する課題
 - 「セプター事務局や重要インフラ所管省庁を通じたNISCへの情報連絡」が96組織
 - … 報告先の選定判断とタイミング、報告先の優先順位に関する課題
- 演習の経験が自社の演習・訓練の企画に活かされると演習に参加した95%が感じた